

地域のストーリーの生成を通じて知識の伝達を促進する多階層連携システムの研究開発

研究機関：京都大学

研究代表者：星野 敏

共同研究機関：(有)エクセリード・テクノロジー



研究の背景

農村地域に対する関心が、現実とイメージの双方から徐々に膨らんでいく一方で、現実に農村地域をとりまく状況は厳しいものとなっています。高度経済成長期に端を発する過疎化・高齢化、そして混住化が農林業の衰退と地域コミュニティの機能低下をもたらし、それが農村人口のさらなる減少につながるという負のスパイラルに陥っている地域が増加しています。その典型例が限界集落問題です。

一方で、昨今TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）に関する議論が高まりを見せ、与党・政府からは農業自由化の方向性が示唆される中で、農業の産業としての競争力の強化が求められています。国家財政・地方財政の悪化に伴い、これまでのように農業や農村地域を補助金等で手厚く保護する余力も無くなっていくことが懸念される状況下で、農村地域が活性化に向けて主体的な役割を担うことが緊急の課題となっています。

委託業務の結果、得られた研究成果の概要

集落・旧村レベルを主な対象として、知識を共有するため Facebook を導入し、住民や関係主体が日常のイベントを簡易に投稿できるようにします。また、投稿データを定期的に自動分析・要約し、分かりやすくフォーマットするアルゴリズムを開発します。それを地域に再提示すると同時に、広域の上位プラットフォームで共有することで、地域内外でのマッチングを実現し、得られたリアクションを再集約することで、地域のストーリーを生成するシステムを開発します。

- ①農村ストーリー生成システムの開発
 - 農村地域住民の投稿情報の自動集約により地域の魅力を可視化
 - 地域の重要な投稿のみを年表形式で時系列に表示し、地域のストーリーを浮かび上がらせる機能の実現
 - 高齢者に配慮した設計（新聞面の印刷対応、シンプルな画面構成など）
- ②農山村地域におけるICTの普及・活用手法の開発
 - 普及が期待される個人の抽出とその特性にデータ活用への展開配慮した普及手法の開発
 - 受入組織の性質や歴史的背景を考慮した普及手法の提案
 - キーパーソンの活用やインターネットを通じたワークショップ手法の開発
 - ICTを活用したコミュニティ再生手法の開発



現状と今後の展開等

和歌山県みなべ町役場と令和元年7月頃から連携し、VR技術を活用した伝統的な炭焼き技術の継承手法の開発や地域施設の改装における住民参加手法の確立について連携しています。また、京都府とも条件不利地域の課題解決に対するICTの活用の可能性について連携しています。研究成果をより高められるように、類似のテーマを持つ他の研究チームとのマッチングの機会があればよいと思っています。

研究代表者

研究機関名	京都大学		
担当者	星野 敏	所属・役職	大学院・農学研究科 教授